

# 人はなぜ泣くのか

葛西琢也・茂木真弓ほか

## 1. 授業案

一、日時 昭和六十年八月二日（金）  
午前九時～九時四十五分

二、児童 群馬県北群馬郡吉岡村  
吉岡村立明治小学校

第四学年二組（茂木級）

男子十九名、女子十八名、計三十七名

三、授業形態 児童の言語生態研究会会員によるティームティーチング

四、授業テーマ及び教材（一時間扱い）

人はなぜ泣くのか

——「どろぼうのなみだ」（見言態・自作）——

五、テーマ設定の理由

（一）私達は、「泣く」ということについて、深く考えられた経験がない。「泣く」という行為は、あまりに日常的であり、あたりまえのこととしてと

らえているために、子ども達に、なぜ泣くのかとたずねてみると、悲しいから、くやしいから、あるいは、感動したからなどと言う。一般的にも、悲しいから泣くと思っている。だが、果たしてそうであろうか。泣きたいと思っても泣けない。あるいは、泣かないと思っても泣いてしまうということとは、どう説明がつくことであるのか。

「泣く」ということは、「泣く」という行為とその行為に至る心との関係だとしなくてはならない。さらに言うなら、その関係に、その人自身の存在を見ているということになる。そして、その関係は、年令とともに変化し、成長していると言える。特に、本授業の対象になる四年生は、泣くことに対する価値観が、それまでのものと変わってくる時期である。人前で臆面もなく泣いていた子が、かげでそっと泣くようになるのも、この学年からである。また、その関係意識が粗雑になるのも、

この時期のように思われる。

（二）ここでは、純粹な人間感情として、「泣き」を考えようとしている。つまり、「泣く」という行為が、人間性に根ざしたものによって引き起こされる。そのことを四年生の成長段階に求めたいのである。現象的に泣いていた時と、生意気盛りになっていくこの過渡期的段階に、人間感情が純化される時、人間は自ずから泣くのだということを自覚させておきたい。

したがって、感情表現を排除した資料を提示することで、できるだけ純粹な泣きを刺激し、人それぞれの「泣き」に至る過程を見ていくこととする。

六、本時の目標

感情を純化させることによって、人は泣くのだということを見つめる。

七、本時の展開

学習活動	指導上の留意点
<p>。学習開始のあいさつをする。</p> <p>1. 本時の学習のめあての確認。</p> <p>人は、どんなときに泣くのか。君は、どんなときに泣くのか。</p> <p>どんな、こんなというとき、君の心は、どうなっているのだろうか。</p> <p>場面の様子を考える学習をいつもしてきたが、それに加えて、今日は、そのとき、君の心は、どうなっているかを考えてもらう。</p>	

<p>3. 本文より、「次の状況」を想起する。</p> <p>さあ、簡単なことから始めましょう。このあと、場面は、どうなるのでしょうか。</p> <p>。数名、口頭発表</p>	<p>4. 右3に同じ</p> <p>5. どれぼうの心は、どうなったかを考える。</p> <p>さあ、簡単な学習は、そのくらいにして、どれぼうの心は、どうなっているのかを考えてもらいましょう。</p> <p>。最初から第三提示文までを黙読する。</p> <p>。問題についての考えを、数名、口頭発表。</p>
<p>再確認させながら、場面展開と心を追う学習のうち、場面の予測から始めさせる。</p> <p>。数名、口頭発表。</p> <p>口頭発表終了後、第二提示文揭示。</p> <p>。右3に同じ</p> <p>第三提示文揭示。</p> <p>。上記問題を考えるために、もう一度最初から第三提示文まで続けて、黙読させる。</p>	<p>6. 第四、第五提示文揭示にともなって、5の問いを考える。</p> <p>どれぼうの心は、どんなだろう。</p> <p>7. 自分の今の心の持ち方を話す。</p> <p>8. 残った第六・第七の二枚の提示文の内容を推測する。</p>

<p>。学習反応の仕方によってであるが、第四・第五提示文の揭示。(同時の場合があり得る。)</p> <p>。学習者の心の持ち方を聞く。</p> <p>くどくならない程度に問う。</p> <p>。二枚残った第六・第七提示文は、どれぼうのしたことと、どれぼうの心が言い当てられるものであることを、場合によっては、示唆してもよい。</p>	<p>八、評価</p> <p>本時の学習の感想を話させることによって、心と行為の結びつきに気づけているか否か、その程度を見る。</p> <p>児童態教材文</p> <p>どれぼうの</p> <p>?</p> <p>→ どれぼうは、おわれていました。</p>
--	--

急に立ち止まりました。

赤んぼうのなき声を耳にしたのです。

捨て子

赤んぼうは、どろぼうを見ました。

すきとおった目でした。赤んぼうは、どろぼうに、

両手を差し出しました。

赤んぼうは、にこにこしていました。

どろぼうは、牛乳を、赤んぼうの口に近づけまし

た。

赤んぼうは、牛乳をのみました。

赤んぼうは、声を上げてわらいだしました。

どろぼうの顔から、こわさが消えていました。

赤んぼうのわらい声につられて、どろぼうもわら

いました。

どろぼうは、自分のわらい声に、気がつきました。

どろぼうが、赤んぼうを、だき上げたのです。

赤んぼうは、安心していました。

どろぼうは、何もかもわすれて、赤んぼうをだき

しめました

どろぼうの目から、とめどなく、なみだがながれ  
ました。

児童用教材文

どろぼうの

?

どろぼうは、おわれていました。

急に立ちどまりました。

赤んぼうのなき声を耳にしたのです。

捨て子

赤んぼうは、どろぼうを見ました。

すきとおった目でした。赤んぼうは、どろぼうに、

両手を差し出しました。

赤んぼうは、にこにこしていました。

どろぼうは、牛乳を、赤んぼうの口に近づけまし

た。

赤んぼうは、牛乳をのみました。

## 2. 授業記録

T1 今日授業でやることは、「人はどんな時に泣く

のか。」ということを考えます。それで、「どんな

時に泣きますか。」と尋ねられて、「私はこうです。」

「ぼくはこんな時に泣きます。」と頭に思いうかべ

られたその時、君たちの心は、どんなふうになっ

ているかも考えてほしい。

いつもの国語の授業でやっている、場面の様子

を考えるのももちろんだけれども、今日はそれに

う一つ、君たちが泣く時、君たちの心がどうなっ

ているか、そういうこともあわせて考えてほしい。

それでは、最初にまず、文をみんなに読んで

もらいたいと思います。

今、黒板にはりますから、声を出さずに、みん

な静かに、黙って読んでください。

児童用教材文のプリント配布

黙読。

T1 C はい。読み終わった人が多いようですけれども、

もう一度さつき先生がいったことを思い出してく

ださい。

今日はね、みんなが泣く時のことを勉強するわ

けね。それで、みんなが泣く時に君たちの心がど

うなっているか、それも考えるんです。それをも

う一度頭に入れて、今、読んだ話を読んでいる君た

ちの心がどうなっているかってことに気をつけて、

もう一回読んでみてください。

黙読。

T1 C はい、じゃあ読み終わったかな。

まず最初は少し簡単な所から考えていきます。

今、君たちが読んだこのあとのお話は、どんなふ

うになっていくと思いますか。

T2 みんなだったら、どういうふうにお話を続ける。

どろぼうが赤ん坊を育てていく。

T1 C どろぼうが赤ん坊を育てていく。はい、土井君

はそういうふうに考えた。

外にありませんか。

なんだ、土井君みたいに考えればいいのか。そんならぼくだって、ちがうこと考えてたよっていう人いませんか。

なかなかでてこない。

U この後だよ。次は何って書いてあるんだらうってことだよ。誰でも言えるんじゃない、これ。

むずかしいことでも何でもないでしょう。ぼくの頭の中には、こうやってでてきたって言えばいいんじゃない。ずうっと頭の中にうかべてごらん。次、何かでてこない。出てくるでしょう。それを言いますればいいんじゃないの。

児童の反応なし。三度目の黙読をする。

C<sub>2</sub> おまわりさんが、また追いかけてきた。

T<sub>1</sub> おまわりさんが追いかけてきて、赤ん坊をつれて逃げた。

T<sub>1</sub> 追いかけてきたってとまでは、さっきと同じだけれど、今度は赤ん坊をつれて逃げた。

ええと、その後はねえ。みんなのプリントはそこまでなんだね。じゃあ、みんなが考えたこのお話がどうなったかを見てもらいます。

第二提示文揭示

T<sub>1</sub> これも、声に出さずに読んでみて。

はい。それでは、さっきと同じようにこの続きは、どうなっているでしょう。

C<sub>4</sub> おまわりさんに追いかけていることをどうぼうは忘れていた。

T<sub>1</sub> 先生、それよく考えてくれたなあって思うよ。さっき先生は、この後、お話はどうなるでしょう。

うか。どう変わっていくでしょう。それを考えてくださいってきいたね。ところが、近藤さんは、おまわりさんに追いかけていることを、どうぼうは忘れていましたと言ってくれたね。これは、お話の続きというより、これは何ですか。近藤さんが考えたことは、何を考えたことになります。

C<sub>2</sub> T<sub>1</sub> ころぼうの何。ころぼうの何を考えたことになるの。心。

そうだね。ころぼうの心を考えたんでしょう。さあ、この後です。

はい、またここへ新しい話をだします。今度は、お話の続きじゃなくて、ころぼうの心が、どうなっているかってことを考えてください。

第三提示文揭示

黙読。

C T<sub>1</sub> ころぼうの心について考えてね。

C<sub>1</sub> T<sub>1</sub> この赤ん坊どうするかって考えた。

ああ、この赤ん坊どうしたらいいか。うん。この赤ん坊は何だった。

捨て子。

C T<sub>1</sub> そうね。捨て子です。そのまま、ここに置いとくわけにはいかない。どうしたらいいか。そう考えたんだな。

U じゃあ、おじさんが一つすけだち。いいか。今まで声を出して読まなかった。それは、声を出さない方が、みんなの頭の中で、このお話がすうーっと思ひ浮かぶだろうからってことを今日ここにいらした先生たちとを考えて、声を出して読むことはやめようって決めてきたのね。けども、このあたりで茂木先生に読んでもらってから、みんなで目をつぶって、このお話を自分の頭の中でずうーっと思ひ浮かべていく。いいな。そして、この後どうなるのかを考えてもらうんだよ。みんなの頭の中に絵をださなくっちゃだめだよ。

T<sub>2</sub> 第三提示文まで朗読

U はい、どうでしょう。

C<sub>5</sub> U こんなところにいたら、おまわりさんにつかまっちゃう。

C<sub>6</sub> 遠くへ逃げようと思った。

C<sub>4</sub> U この赤ん坊をほうっておいたらかわいそうだ。それぐらいにして、次だしてもらおう。

第四提示文揭示

U ほら見てごらん。こんな簡単だったのよ。ねえ。

誰でも言えるんじゃないの。

じゃあ、この後。この後、ころぼうが何かしたんだってさ。

自分の子にしようと思って、家につれていった。

赤ん坊を置いて逃げていつちゃった。

寝かせようとした。

C<sub>9</sub> 赤ん坊をつれて逃げた。

C<sub>4</sub> もう一度、牛乳を飲ませようとした。

C<sub>5</sub> 近くの人にあげようと思った。

T<sub>1</sub> 次、見てみようか。じゃあ、はい。本当のお話は、どうなったか。

第五提示文揭示

U あんなだった。ね、あれもみんな考えたことだったかもわかんないね。

T1 さつき考えていたどろぼうの心を考えてみて。どろぼうの心はどうなっているか。どんなふうになっているのか。

U じゃあ、今度はおじさんが読んでみる。

目をつぶって。よく聞いてね。もう最後だからね。もうあそこに紙残ってないの。ほら、いいね。

第五提示文まで朗読

U さあいこう。どろぼうの心を考えてみて。

今、赤ん坊をどろぼうは見ているわけだね。この時のどろぼうの気持ちは、どんなふうになっているんだろう。

C8 どろぼうは赤ん坊の顔を見ている。

T1 どんな気持ちで見ているでしょう。どろぼうの心を考えてほしい。

C4 この赤ん坊かわいいな。

C8 自分の子どもにしたいなあ。

T1 さあ、今そうゆうふうみんな考えてくれたけど、それを考えている今の君たちの心はどうなっていますか。

たとえば、今、岸君は、自分の子どもにしたいなあって考えた。近藤さんは、この赤ん坊かわいいなって考えた。

さあ、その時のあなたの心はどうですか。

C8 やさしい。

T1 やさしい気持ちに、君は今なっている。いこうとなんか恥しいけれども、そういうふうと言

えるわけ。

近藤さんはどう。

この赤ん坊の顔、かわいくなって思っている。そういう場面を今、近藤さんは考えてたわけ。その時のあなたの心は。言ってみよう。

C4 やさしい。

T1 ではね、この後、今、ここにこのお話の続きが裏がえしになって、みんなには見えないようになっていきますね。君たちの心を考えてみせてくださいって、今言っているのは、これを考えることでもある。この後を考えることが、君たちの心を考えることと同じことなの。

U 時間もなくなってきたからね。最後に当たり、はずれでいいこう。

あそこに二枚書いてあるだろう。もう、あれでおしまいなんでもん、この話。だから当たりかはずれか。二枚当てさえすればいいんだよ。

T1 じゃあ、順番にきいてみようかな。

第六、第七提示文、白紙でかくされていてみえない。

U どちらだ。二枚あるんだから、かつちりいこう。

C10 前。この子を育ててくれる人はいないかなあ。

U 飯住先生、当たり、はずれ。

T3 ちがうなあ。少し。

U ちがう。はずれだってよ。

U さあ、がんばって。

C11 前。何もかも忘れて、赤ん坊を見た。

U おう、どうですか。どうですか。飯住先生、ど

うですか。

T3 近いなあ。

U 近いなあって言うてるよ。おお大変だあ。ほれ、がんばれ。

C2 前。どろぼうは、何もかも忘れて赤ん坊をだきしめた。

U どうです、これ。飯住先生どうですか。

T3 ほう。（歓声）

U もう、あけようとしているよ。やさしい先生だね。あけるの、本当に。大丈夫。当たった。

T3 当たってます。

U ほう、当たってますだって。

C ワー。（拍手）

U すこいねえ。やったあ。やっぱり明治小学校はたいしたもんだ。茂木先生が教えてるだけのことはある。

さあ、あけてやって。ちがってないか。

T3 あけるよ。

U おーっ。あんなに当たった。何もかも当たったたよ。ほら。（歓声）

T1 びったりだね。

U びったりじゃないの。すこい。もう一度拍手。

U よかった。すごい。

こうなるだろうとおじさんは思ってたんだよ。大変だったよ、もう。うん。みんな黙ってるんだもん。よくしんぼうした。君たちじゃないよ。先生たちだよ。

全員 笑い。

U

さあ、残り一枚当てて。最後の一枚。もう一度  
拍手したいなあ、おじさん。あれでおしまいかな。

じゃあ、ヒントだ。これ、題がついてる、ここ

に。どろぼうの何とかがってね。こうかくしてある。  
これね。まだ先生言わなかったけれども、ここへ  
入れてほしいんだろうね。きつとね。どろぼうの  
何かって書いてあるんだ、本当は。これとも考え  
ていたら、あそこは答えがやすいと思う。

あの題は何だったんだろう。どろぼうの何とか。  
そして、一番最後、あそこの言葉とは、よく合っ  
てるんだと思うよ。

C<sub>12</sub>

どろぼうの子ども。(題名の方)

C<sub>3</sub>

どろぼうの涙。(題名の方)

U

どろぼうの涙。うおーっ。

すごい。やったあ。正解。

どろぼうの涙でした。

そうするとあそこなんだよ。ねえ、何なの、あ  
そこは。今日の学習何だった。ここに書いてある  
めあて。君は、どんな時泣くのか。その時、君の  
心はどんなだろうっていうのをやってるんだろう。  
そしたら一番最後。こっちも涙だつてきたら、あ  
そこは何だか(第七提示文)わかりそうだな。さ  
あ、何だろう。

ばつと当たってなくっちゃだめだよ。さっきみた  
いに。あれはすごかったな。すごいね。それくら  
いみんなの力はあるんだから、がんばれ。

たくさんの児童の挙手があるまで、し  
ばらく待つ。

U

よし。はじからいこう。

C<sub>1</sub>

どろぼうは、赤ん坊をだきしめながら泣きまし  
た。

T<sub>3</sub>

近い。近い。

C<sub>2</sub>

どろぼうの目から、涙があふれていました。

U

どうですか、飯住先生。

T<sub>3</sub>

ずいぶん近くなった。

C<sub>4</sub>

どろぼうは、どうしていいかわからなくなって、  
泣きだしました。

C<sub>12</sub>

どろぼうは、泣きだしました。

C<sub>9</sub>

どろぼうは、何もかも忘れて赤ん坊をだきしめ、  
泣きだしました。

泣きだしました。

T<sub>3</sub>

佐藤君より遠くなっちゃった。

C<sub>6</sub>

うれしくて困った。赤ん坊をだいた。

U

うれしくって、どろぼうは何もかもわすれて、  
赤ん坊をだきしめました。どろぼうはうれしくつ  
て泣いた。どうですか。

※文中

赤ん坊をだきしめました。

T<sub>3</sub>

先生たちが考えてきたのより、少しいいかも。

U

先生たちが考えてきたやつより少しいいかなっ  
て。すごいねえ。じゃあ拍手だ。

C

拍手。

U

さあ、時間がちょうどきたから、あけてもら  
いましょう。

C<sub>3</sub>

ちよつとあける前に、もう一度言わしてくれつて  
いうのはいいかな。いたよ。

U

どろぼうは、赤ん坊をだきしめながら泣きだし  
ました。

あけていいですか。

C

いい。

U

よし。じゃあ、あけてもらいましょう。

U

大体いいですね。みんな答えが近かったね。は  
い、以上です。

U

ええ、最初ちよつと大変でした。でも、ここまで  
みんな本当によく考えてくれたなあと思います。

T<sub>1</sub>

まわりで見えていくださった方々、今、涙こそで  
てないけれど、とてもうれしくなって、今、君たち  
がいつしょうけんめい考えてくれたのを見てくれ  
たことだと思えます。本当に今日はよく考えてく  
れましたね。じゃあ、これで終わりにしましょう。  
ごくろうさま。

U

ごくろうさま。

### 第七提示文揭示

児童

T<sub>1</sub> 葛西琢也(聖徳学園小・教諭)

T<sub>2</sub> 茂木真弓(群馬・吉岡村立明治小・教諭)

T<sub>3</sub> 飯住良夫(横浜市立汐見台小・教諭)

U 上原輝男(玉川大学教授)